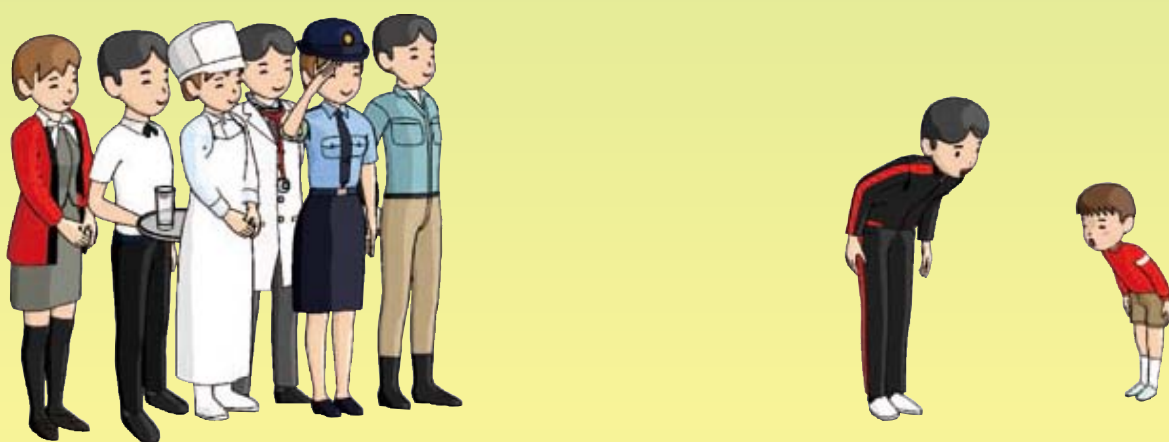


知的障害特別支援学校における キャリア教育の推進



東京都教育委員会は、平成 19 年 11 月「東京都特別支援教育推進計画 第二次実施計画」を策定し、特別支援教育の推進に向けて具体的な展開を示しました。その中で、新たな計画項目として、「障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の推進（キャリア教育）」を挙げています。これは、障害のある児童・生徒の自立と社会参加に向けて、小・中学部段階からのキャリア教育を充実し、活動する喜びや働く喜びが体感できる指導の展開を図っていくものです。そのために、今年度から「キャリア教育推進委員会」を設置し、キャリア教育に関する指導内容及び方法等についての研究・開発に取り組んでいきます。

本報告書では、特別支援学校におけるキャリア教育の定義を捉え直し、発達段階や障害特性に応じた指導目標及び内容等を示した「特別支援学校版キャリア教育発達段階表」を作成しました。また、現在行われている教育活動全体をキャリア教育の視点で見直し、小学部・中学部における具体的な授業モデルや就業体験の実践例、高等部における教科「職業」の指導内容の分析などを研究・開発しました。

平成 21 年 3 月

東京都教育委員会



目次

第 1 章 キャリア教育の定義

1 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の定義とは	1
2 「勤労観」「職業観」の育成	1
3 キャリア教育発達段階表	3
4 各学部における指導のポイント	8

第 2 章 小学部・中学部におけるキャリア教育の指導内容と指導事例

1 キャリア教育の教育課程上における各教科との関連	9
2 小学部・中学部における授業の実際	12
(1) 小学部 授業モデル	12
(2) 中学部 授業モデル	18
3 小学部の職場体験、中学部の就業体験（インターシップ [®] ）の実践例	16
(1) 小学部、中学部における就業体験（インターシップ [®] ）等の実施状況	18
(2) 具体的なモデル例	19

第 3 章 高等部におけるキャリア教育

1 企業就労に求められる力	21
(1) 愛の手帳の度数別進路状況	21
(2) 高等部におけるキャリア教育と職業教育との関係	22
(3) 離職理由と今後の支援	23
2 キャリア教育の実践	24
(1) 教科「職業」における4つの領域との関連	24
(2) 教科「職業」における4つの領域の構成	26

第 4 章 キャリア教育の推進

1 組織的、系統的なキャリア教育の推進	27
2 キャリア教育の理解・啓発	27

第1章 キャリア教育の定義

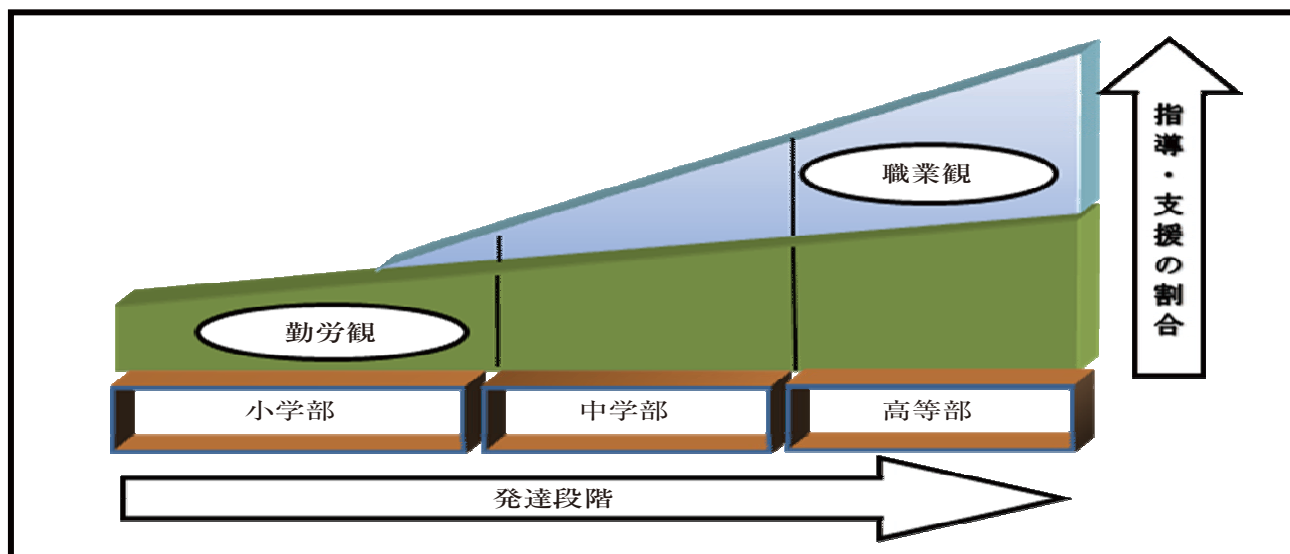
1 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の定義

知的障害特別支援学校におけるキャリア教育とは、児童・生徒の実態に応じて、労働や就職・就労のみにとらわれず、自分でやれることを増やしていこうとする態度・意欲（勤労観）をはぐくみ、自らの生き方を主体的に考え、進路を適切に選択できる能力・態度（職業観）を障害の特性や発達段階に応じて育成する教育のことです。

2 「勤労観」「職業観」の育成

「**勤労観**」の育成は、日常生活の中で自分の役割を理解し、果たそうとする態度・意欲をはぐくむことと捉えることができます。そのためには、日常生活動作や基本生活習慣の確立に向けた指導・支援を基本に、社会生活・家庭生活に主体的に参加し役割を果たす力を付けるように指導・支援することが大切です。また「**職業観**」の育成は、職業に就こうとする態度・意欲をはぐくむことと捉えることができます。そのためには、実際に働く力や職業的な自立に必要な力をはぐくむよう指導・支援することが必要です。これらの力は、発達段階に応じて指導・支援の割合が変化し、それらの関係を模式化すると、図1のように表現できます。

図1 発達段階と勤労観・職業観との関係



「**勤労観**」「**職業観**」との関係は、基盤となる勤労観の育成の土台の上に、職業観が積み重ねられていきます。勤労観に関する指導・支援は、小学部から高等部において行われます。小学部低学年では、日常生活動作など基本的生活習慣に関する力の獲得への指導・支援に重点が置かれますが、その力の獲得に伴い、社会生活・家庭生活へ主体的に参加し、自らの役割を果たす力の獲得への指導・支援に重点が移行します。その結果、発達段階に応じて勤労観をはぐくむ指導・支援の割合は、全体として増加していきます。一方、職業観に関する指導・支援は、小学部高学年より始められ、学年・学部の進行により、実際に職業的な自立に必要な力や働く力をはぐくむ指導・支援が重視され、職業観をはぐくむ指導・支援は増加していきます。

勤労観・職業観をはぐくむために身に付けさせたい具体的な能力・態度を4つの能力領域（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）に大別し、さらに具体的な能力として、各2つの計8つの能力に整理したものが、表1「職業的（進路）発達に関する諸能力」です。

表1 職業的（進路）発達に関する諸能力

【※平成16年「進路指導啓発資料」より】

能力名と領域説明		能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人とコミュニケーションを図り、協力・確認して取り組む。	【自他の理解能力】 人とのかかわりを通して自分や友達の長所を知り、互いに認め合う能力
		【コミュニケーション能力】 あいさつや返事を通して豊かな人間関係を築き、集団の中で自分の思いや意見を適切に表現していく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 働くことや進路・職業に興味・関心をもち、様々な情報を収集、活用するとともに、自己の生活や進路を考えていく能力
		【職業理解能力】 様々な就業体験を通して学んだり、体験したことを自分の生活や職業選択に生かしたりしていく能力
将来設計能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 家庭・学校・地域において果たすべき、役割を理解する能力 職業生活に必要な知識・技能・態度を養う能力
		【計画実行能力】 将来の生き方や進路を考え、それを実現するための計画をたて、実行していく能力
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組む。	【選択能力】 自己の個性・適性を活かした生き方の実現のために、よりよい選択をする能力
		【課題解決能力】 日常生活や就業体験等の様々な学習場面を振り返り、それを次に活かそうと努力する能力 希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

この4領域の能力を発達段階（小学部・中学部・高等部）ごとに区分し、キャリア教育の特徴的な観点やその具体的な指導に向けた教育課程上の位置付け、流れについて整理したものが、次に述べる「3 キャリア教育発達段階表」です。

3 キャリア教育発達段階表

表2 小学部

領域	能力	小学部	
		低学年	高学年
		生活にかかわる基礎的スキル獲得の時期	
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力	自分が好きなこと、嫌いなことを表現する。	自分の良いところを見付ける。
		友だちと仲良く遊ぶ。	友だちのよいところを認める。
			友だちと協力して、学習や活動に取り組む。
		あいさつや返事をする。	
		あいさつ、朝の会(日常生活の指導) コミュニケーション、心理的安定(社会性の学習、国語、算数、自立活動) 交流、集会、文化祭、校内宿泊、移動教室、運動会、式典(特別活動) 見る・聞く活動、模倣活動、課題学習(国語、算数) 集団遊び(音楽、遊びの指導)、手遊び、言葉遊び、かかわり遊び(国語、算数)	自己表現活動(生活単元学習、図画工作、音楽、体育等) 分類、弁別、問題解決活動(国語・算数)
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力	分からないことを聞くことができる。	分からないことを調べたり、質問したりする。
		家族の存在や家庭での役割に興味をもつ。	身近で働く人々の様子に興味・関心をもつ。
		校外歩行(生活単元学習) 描画、版画、工作、粘土(図画工作) 係活動、朝の会、掃除(日常生活の指導) 時計、お金の認識(国語、算数)、見る活動、模倣活動、手遊び、言葉遊び、かかわり遊び(国語、算数)	買い物学習、乗車学習、公共機関の利用、公共のマナー、パソコンに関する授業、就業体験(生活単元学習)
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	家の手伝いや割り当てられた仕事、役割ができるようになる。	
		作業の準備や片付けをする。	時間や決まりを守り、作業の手順が分かる。
		係活動、朝の会、掃除、生活習慣(日常生活の指導)、描画、版画、工作、粘土(図画工作) かかわり遊び、役割交代遊び(国語、算数、音楽) 集団遊び、ルール遊び(遊びの指導、生活単元学習、特別活動) 文化祭、校内宿泊、移動教室(特別活動) 体力づくり、運動機能の向上(体育、自立活動)	集団ゲーム(体育) 行事事前事後学習、卒業後の進路(生活単元学習)
意思決定能力	選択能力 課題解決能力	自分の好きなものを選ぶことができる。	
		自分のことは自分で行おうとする。	自分の仕事を最後までやり通そうとする。
		ゲーム、遊び、リラクゼーション、コミュニケーション、体の動き(社会性の学習、自立活動) 買い物学習、調理、手芸、栽培(生活単元学習) 遊具遊び(遊びの指導) 日常生活動作(日常生活の指導) 描画、版画、工作、粘土(図画工作)	係分担、係活動、掃除、日常生活動作(日常生活の指導)、買い物学習(生活単元学習)、かかわり遊び、役割交代遊び(国語、算数、音楽、自立活動)

表3 中学部

領域	能力	中学部		
		1年生	2年生	3年生
職業及び生活にかかわる基礎的スキルの獲得の段階				
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力	自分の良いところを見付け自信をもつ。	自分の長所や短所を知る。	友達の良さ、個性も理解する。
		自分と相手の違いを知る。	相手の考えを聞くことができる。	相手の立場に立って、考え行動しようとする。
		友だちと協力して、学習や活動に取り組む。		
		あいさつや返事をする。		
		クラス表示作り(日常生活の指導) 集団レクリエーション(社会性の学習等) 作業学習 言葉遣い,身だしなみ(日常生活の指導、職業・家庭) 運動会、文化祭等(特別活動) 交流活動(総合的な学習の時間)	日記、作文(国語) 集団競技(保健体育)	季節のあいさつ(国語)
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力	情報を得るためのいろいろな方法を知る。	進路に関する情報に触れ、興味・関心をもつ。	
		社会には、いろいろな職業があることを知る。	職場見学や就業体験に興味・関心をもって取り組む。	
		公共施設・交通機関利用のルールとマナー(社会性の学習)		
		パソコンの利用(国語、数学) 代替コミュニケーション(自立活動)	就業体験(職業・家庭)	販売活動(作業学習) 高等部見学、作業班体験(職業・家庭)
		職場見学(生活単元学習・総合的な学習の時間・特別活動)		
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	自分の役割を理解して、係活動を行う。	係活動などで、自分の役割があることを理解し、継続的に実行する。	
		計画づくりについて知り、作業の手順を経験する。		
		憧れとする職業や夢をもつ。		
		健康管理(保健体育)	調理学習、買い物、洗濯、美化活動(職業・家庭、生活単元学習)	
		一人通学(日常生活の指導) 余暇利用(生活単元学習、総合的な学習の時間、特別活動)		
意思決定能力	選択能力 課題解決能力	自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む。		
		自分の仕事に対して責任をもち、最後まで行う。	自分の将来について考えることができる。	
		家族の役割(生活単元学習)	自分の成長(生活単元学習)	
		自己表現(音楽、美術) 校内宿泊、移動教室	移動教室	修学旅行

表4-1 高等部(重度)

領域	能力	高等部(重度)		
		1年生	2年生	3年生
職業及び卒業後の家庭生活に必要なスキルの獲得の時期				
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力	自分の長所や短所が分かる。	自分と相手の違いを知る。	相手のことを考えて行動しようとする。
		身近な人の支援を受けながら、学習や活動に取り組む。	友だちと協力して、学習や活動に取り組む。	いつでも、どこでも、だれとでもいろいろな活動が行える。
		あいさつや返事をする。	あいさつや返事を自分から行う。	自分の意思や気持ちを相手に適切な方法で伝える。
	自己紹介(生活単元学習) 身辺処理の確立(日常生活の指導) 集団の一員としての役割遂行(作業学習、文化祭や運動会等の特別活動) 服装、身だしなみ、言葉遣い(日常生活の指導、職業、作業学習) 集団競技(保健体育) 性に関する指導(日常生活の指導、保健体育)	長所と短所(職業)	室内の仕事と屋外の仕事(職業)	
	情報収集・探索能力 職業理解能力	職場見学や実習報告会を通して働く場の様子を知る。	実習を通して働く場と学校の違いを知る。	卒業後は社会人として働くことが分かる。
身近で働く人々の様子に興味・関心をもつ。	社会にはいろいろな仕事があることを知る。	職場見学や実習を通して、働くことに興味・関心をもつ。		
公共施設、交通機関利用のルールとマナー(職業、総合的な学習の時間) パソコンの利用(情報) 金銭管理(数学、職業) 実習激励会、実習報告会(職業) 職場見学(職業)				
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	決められた係仕事や作業をきちんと行う。	互いの役割や役割分担について理解する。	係活動や作業学習で、自分の役割があることを理解し、継続的に実行する。
		将来やりたいこと、知りたいことを見付ける。	卒業後の社会人生活に関心をもつ。	働く生活を中心とした新しい生活へ期待をもち、そのための準備をする。
	健康管理(保健体育) 調理、買い物、洗濯、美化活動(職業、家庭、生活単元学習) 一人通学(日常生活の指導) 余暇利用(生活単元学習、総合的な学習の時間) 係活動(日常生活の指導)			
意思決定能力	選択能力 課題解決能力	自分のやりたいことや好きな物を選ぶことができる。	自分のやりたいことを選び、進んで取り組む。	実習を通してやりたい仕事を選ぶことができる。
		自分のことや決められた仕事を自ら行おうとする。	自分の仕事に対して、最後までやり通そうとする。	将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする。
	移動教室 作業学習 就業体験	移動教室 産業現場等における実習	修学旅行	

表4-2 高等部(中度)

領域	能力	高等部(中度)		
		1年生	2年生	3年生
職業及び卒業後の家庭生活に必要なスキルの獲得の時期				
人間関係形成能力	自他の理解能力	自分と友だちの長所や短所が分かり互いに認め合う。	自分や友だちの長所に気付き、集団の中で自分らしさを発揮する。	相手の立場に立って物事を考えられるようになる。
		友だちと協力して、学習や活動に意欲的に取り組む。	実習等の体験学習を通して、役割と責任を果たそうとする。	実習等の体験学習を通して、他者と協力し、役割と責任を果たそうとする。
		場面に合った自分の意見や気持ちを相手に分かりやすく表現する。	困ったときに自ら支援を求めたり、相談したりできるようになる。	異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを行うことができる。
	コミュニケーション能力	長所と短所(職業) 身辺処理の確立(日常生活の指導) 集団の一員としての役割遂行(作業学習、文化祭や運動会等の特別活動) 服装、身だしなみ、言葉遣い(日常生活の指導、職業、作業学習) 集団競技(保健体育) 性に関する指導(日常生活の指導、保健体育)		
情報活用能力	情報収集・探索能力	実習や職場見学を通して、いろいろな職業や生き方があることが、もっと知りたいという気持ちをもつ。	実習や職場見学を通して、いろいろな職業や生き方があることがわかるとともに自分の課題が理解できる。	社会の様々な制度やサービスを知る。
		仕事や働くことに積極的に取り組み、働くことの楽しさを実感する。	実習や職場見学を通して、働くことの意義や働く上で必要なことが分かる。	実習や職場見学を通して、働くことの意義や働く上で必要なルール、マナーを理解する。
	職業理解能力	公共施設、交通機関利用のルールとマナー(職業、総合的な学習の時間) パソコンの利用(情報) 金銭管理(数学、職業) 実習激励会、実習報告会(職業) 職場見学(職業)		
	将来設計能力	役割把握・認識能力	将来に向けて自分なりの夢や希望をもつ。	将来の夢や希望をもつとともに、自分にふさわしい職業や仕事への関心を高める。
社会生活にはいろいろな役割があることが分かる。			社会生活にはいろいろな役割があることの大切さが分かる。	社会生活にはいろいろな役割があることが分かり、その役割に責任をもつ。
計画実行能力		健康管理(保健体育) 調理、買い物、洗濯、美化活動(職業、家庭、生活単元学習) 一人通学(日常生活の指導) 余暇利用(生活単元学習、総合的な学習の時間) 係活動(日常生活の指導)		
意思決定能力	選択能力	自分のやりたいこと、よいと思うこと等を考え、進んで取り組む。	実習を通して、将来やりたい仕事を選ぶことができる。	卒業後の進路先を選ぶことができる。
		自分の仕事に対して責任をもち、積極的に取り組む。	自分の仕事に対して責任をもち、最後までやり通そうとする。	将来の夢や希望をもち、実現に向けて自己の課題を克服しようと努力する。
	課題解決能力	移動教室 作業学習 就業体験	移動教室 産業現場等における実習	修学旅行

表4-3 高等部(軽度)

領域	能力	高等部(軽度)		
		1年生	2年生	3年生
職業及び卒業後の家庭生活に必要なスキルの獲得の時期				
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力	自分や友だちのよいところを見付ける。また友だちのよいところを認める。	自分や友だちの長所や短所に気付き、集団の中で自分らしさを発揮する。	自分のよさや個性が分かるとともに、様々な場面において他者のよさや感情を理解し表現する。
		集団の中で、自分の役割と責任を理解し、互いに支え合いながら仕事をする。	リーダーとそれを支える人の立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。	上司と部下の関係を理解し、職場での立ち居振る舞いや言動に気を付けて仕事をする。
		人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。	TPOに応じ、相手の立場に立って行動しようとする。	他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする。
	自分を知る(職業)。 進路相談(日常生活の指導、職業)	TPOに応じた言動(国語、職業等)	社会人生活に向けて(職業)	
	集団の一員としての役割遂行(作業学習、文化祭や運動会等の特別活動) 服装、身だしなみ、言葉遣い(日常生活の指導、職業、作業学習) 集団競技(保健体育) 性に関する指導(日常生活の指導、保健体育)			
情報活用能力	情報収集・探索能力	就業体験や職場見学を通して、働くことの意義や働く上で必要なことが分かる。	学んだり体験したりしたこと、自分の生活や職業との関連を多面的に情報を集めて考える。	多様な職業観、勤労観を理解し、職業や勤労に対する理解、認識を深める。
		図書やインターネットを積極的に活用し、自分に必要な情報を収集する。	生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査、収集、整理し活用する。	社会の法制度や福祉サービスの活用の仕方や手続の方法を知る。
	職業理解能力	公共施設、交通機関利用のルールとマナー(職業、総合的な学習の時間)		
	パソコンの利用(情報)			
	金銭管理(数学、職業)			
電話の使い方(職業)				
就業体験、産業現場等における実習(職業)				
法制度の理解(職業)				
将来設計能力	役割把握・認識能力	将来の夢や希望を膨らませ、自分にふさわしい仕事や職業への関心を高める。	将来の夢や希望を膨らませ、それに基づいた筋道を立て、その達成に向けて努力する。	将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。また、自分の将来を暫定的に計画する。
		社会生活には色々な役割があることを理解し、その大切さが分かる。	様々な職業の社会的役割を理解し、自己の生き方を考える。	学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。
	計画実行能力	健康管理(保健体育)		
	調理学習、買い物、洗濯、美化活動(職業、家庭、生活単元学習)			
	将来の設計(職業)			
余暇利用(生活単元学習、総合的な学習の時間)				
意思決定能力	選択能力	自分がやりたい、あるいは自分に必要だと思う学習に進んで取り組む。	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。	選択の意味や判断、決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。
		自己の課題を理解し、その解決に向けて粘り強く取り組もうとする。	自己の課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	よりよい社会生活、進路決定を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。
	課題解決能力	目標の設定と振り返り(日常生活の指導)		
	作業学習			
校内宿泊、移動教室	移動教室	修学旅行		

4 各学部における指導のポイント

表5は、キャリア教育発達段階表をもとに、各学部で指導を行うに当たって、特にポイントとなる点を4領域ごとにまとめたものです。

表5 各学部で大切にしたい指導のポイント

	小学部	中学部	高等部
人間関係形成	<p>○ 集団生活の開始時期であり、対教師・大人の関係から、対友だちの関係を築き始める時期</p> <p>・ 一人遊びと集団遊びを併存させ、効果的に両立させていく。</p>	<p>○ グループ活動が中心となり、友だちと協力して学習や活動に取り組む時期</p> <p>・ 自分の長所や短所を知ることから始まり、相手の立場に立って考えることができるようにする。</p>	<p>○ 他者の考えや違いを理解し、実習等における実際的な職業体験を通して、自己の適性や能力を知る時期</p> <p>・ 実習を通して、相手の立場に立つことや、就業体験のまとめを行い、働くことへの意欲がもてるようにする。</p>
情報活用	<p>○ 見本やお手本のとおりに行動する力や、周囲の状況を理解して行動する力を身に付ける時期</p> <p>・ 作って使う、作って食べるといった楽しさを伴う経験を重ねていく。</p>	<p>○ 公共施設等の利用の仕方や社会のマナーを知る時期</p> <p>・ 実際的な体験や調べ学習を通して正しい情報を得ることによって、進路に関する情報や社会的マナーを理解できるようにする。</p>	<p>○ 社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用を学ぶ時期</p> <p>・ 卒業後の社会生活を想定し、ロールプレイ等を通してサービスの利用の仕方や相談方法を理解できるようにする。</p>
将来設計	<p>○ 身近の自立から始めて、役割活動が導入されていく時期</p> <p>・ 家庭内でのお手伝いや、教室内で行える係活動等を取り入れていく。</p>	<p>○ 教室内の仕事に限らず、活動の範囲も広がって仕事内容も細分化されていく時期</p> <p>・ 他の人のために自分の役割を行っていく点を重点に指導に当たっていく。</p>	<p>○ 社会生活の中で自分が果たすべき役割を理解し、実行する時期</p> <p>・ 生徒会活動やクラスでの係活動を中心としながら、自ら役割を遂行できるようにする。</p>
意思決定	<p>○ 経験を通して、好きなもの、行きたい場所等のレポーターを広げていく時期</p> <p>・ できないこと、分らないことがあった時に、適切な手段で表現するといった、社会性の基礎も同時に養っていく。</p>	<p>○ 選択肢の内容や意味を理解させ、選ぶ力を付けることを大切にしていく時期</p> <p>・ 興味、関心に基づく単元を設定し、やりたい活動を選択、決定できるようにする。</p>	<p>○ 卒業後の生活に期待をもつとともに将来設計に結び付く進路計画を行う時期</p> <p>・ 産業現場等における実習等を通して、自ら進路を選択するだけでなく、個別移行支援計画を活用しながら進路学習を進めていく。</p>

高等部においては、障害の重い生徒から、障害の軽い生徒まで幅広く在籍しています。障害の重い生徒には、学習を繰り返し積み重ねながらも、社会への移行期であることを踏まえた学習活動を展開していくことが大切です。